

この度は、弊社製品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。

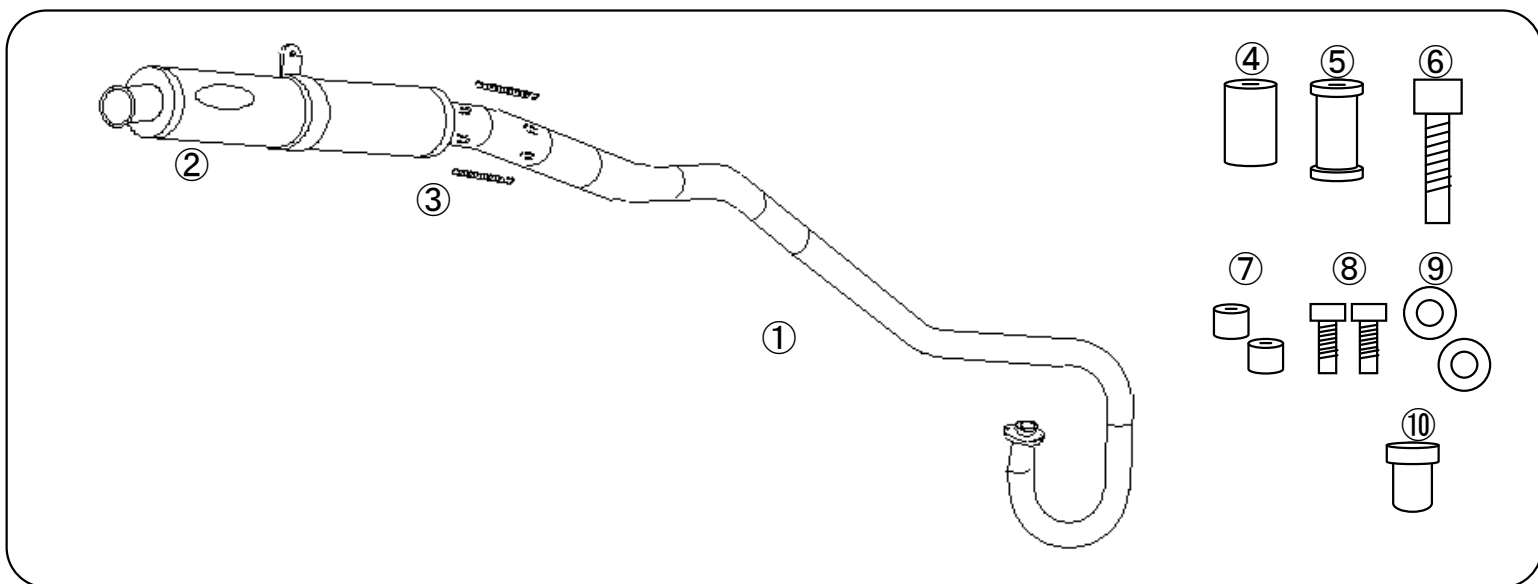
この製品はKSR110用です。適合以外の機種(車両型式・年式)には使用できません。(装着できた場合でも性能は保証を致しかねます)

この製品は、サーキット等のクローズドコースでの使用を前提に設計されており、各種規制には適合しておりません。

取付けに関しましてはメーカー発行のサービスマニュアル及び当説明書をお読みいただき十分ご理解いただいた上で作業を行って下さい。

作業は必ずエンジンが冷えた状態で、且つ車体が安定した状態で行って下さい。

その他、取付け作業に関してご不明な点などございましたら、当社までお問い合わせ下さい。



### ①純正マフラーの取り外し

シートカウル又はサイドカバーを取り外し、純正マフラー、及び付随するパーツを取り外します。マフラー・カウル・その他純正パーツの脱着方法に関してはメーカー発行のサービスマニュアルの指示に従ってください。取り外しの際の純正ボルト・ナット類の一部はマフラーを取り付けるときに使用しますので無くさない様ご注意ください。

※13-の車両は、マフラーに接続されていた二次エアホースの先を⑩二次エアホースプラグで塞ぎます。

### ②マフラーの取り付け

エンジンに①エキゾーストパイプ取り付けます。この時、フランジ部のナットは仮止めの状態(取り付けたパイプが少し動く程度)にしておきます。ガスケットはマフラー脱着毎の交換を推奨します。

### ③サイレンサーの取り付け

エキゾーストパイプに②サイレンサーを奥まで差込みスプリングを掛けます。車体後ろ寄りの純正マフラー取付け部に、⑥ボルトとサイレンサーバンドで仮付けします。

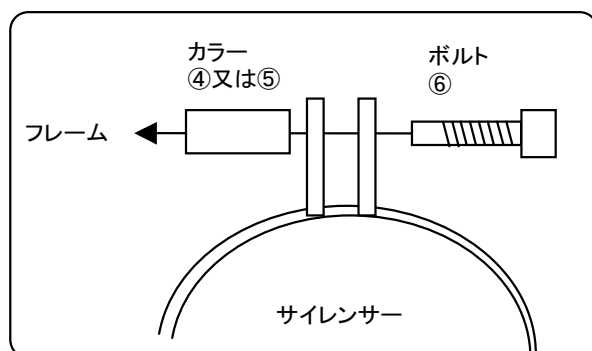
※取り付けには、車両の年式に応じて下記カラーを使用します。

-08年式の車両:④カラー-L20

13年式-の車両:⑤カラー-L29

### パーツリスト(梱包内容)

図番	パーツ名	数量
①	エキゾーストパイプ	1
②	サイレンサー	1
③	スプリング	2
④	カラー φ8.5-L20	1
⑤	カラー φ8.5-L29	1
⑥	ボルト M8-45	1
⑦	カラー φ15-6.5xL11	2
⑧	ボルト M6-25	2
⑨	ワッシャー M6	2
⑩	二次エアホースプラグ	1



模式図の為、実際のボルト・ナットと形状が異なります

※スプリングを掛ける際、ラジオペンチ等を使用するとスプリングが折れる原因になります。スプリングフックを使用して作業する事をお勧めします  
※各差込み部には排気漏れ防止の為、シリコンボンド等を用いる事をお勧めします。

#### ④本締め

車体各部との干渉がない事を確認し、必要があれば調整を行いながら仮止めしたフランジ部のナットを本締めします。フランジ部が傾いたりしないよう、フランジナットは均等に締め込んで下さい。締め込み具合によりパイプの位置が動いて各部のクリアランスが変化する場合がありますので、注意しながら作業を行って下さい。また、締め過ぎはスタッドボルトの破損を招く場合がありますのでご注意下さい。次にサイレンサーのボルト、ナットを本締めします。

#### ⑤カウル類の取り付け

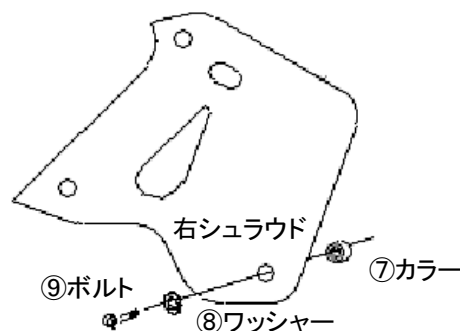
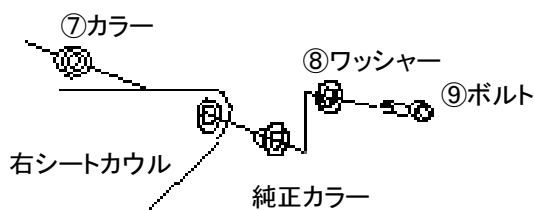
取り外したシートカウルを取り付けます。

-08の車両・13-の車両、共にシートカウル右前側の取り付け部分には車体とカウルとの間にカラーを挟み、パイプ及びサイレンサーとカバー類のクリアランスを確保します。次に-08の車両のみ、右側シュラウドとパイプとのクリアランスを確保する為、同様にカラーを挟んで固定します。

※付属のカラーを使用しても、車両の状態により、右側シュラウド下部とエキゾーストパイプのクリアランスが小さく、ニーグリップ等によりシュラウドが変形した場合などにエキゾーストパイプと干渉する場合があります。この場合は市販の耐熱シート等をシュラウド裏面に貼り付けて熱対策を行うか、シュラウドの干渉部分をカットしてください。

※図は-08年式の車両の場合の取り付けイメージです。

※車両個体差で、付属カラーを使用しなくても十分にクリアランスが確保できる場合もあります。



#### ⑥最終確認

以上でマフラー取り付け作業は終了です。マフラーに付着した汚れをよく拭き取った上でエンジンを始動し、排気漏れ等がない事を確認し、必要があれば修正を行って下さい。マフラーがカウルに干渉していない事を確認して下さい

※エキパイに指の皮脂等が残ったまま熱が加わると、焼けムラの原因になります。十分脱脂を行って下さい。

※サイレンサーのエンブレム部にビニールシートが張り付けてある場合は事前に剥がして下さい。

※定期的にボルト・ナットの緩みが無い事を確認し、必要があれば増し締めを行ってください。

●グラスウール(消音材)は消耗品です。主な消耗の例としては、「排気圧によるグラスウールの飛散」、「カーボン(スス)の堆積による目詰まり」、「水分を含む事による消音能力の低下」、等があり、消耗の進み方は走り方や環境によって大幅に変わります。グラスウールの飛散はほぼ使用期間に比例しますが、その他のケースは使用状況によってはごく短期間で発生する場合があります。主な原因は吸気系/点火系の不具合や乗り方によるカブリ症状から起こるカーボンの堆積、雨水や燃焼時の水分が排出されずにいる事から起こる水分の滞留などです。カーボンの発生は定期的なメンテナンスやカブラせない乗り方を意識する事で防ぐ事ができ、サイレンサー内に一時的に溜まった水分は、高回転域を使用する事で蒸発→排出されますので、定期的に適度に回して乗る事で解消する事ができます。(スピード違反を推奨するものではありません。安全に法令遵守の範囲でお願いします。)

グラスウールが消耗した状態での走行は周囲の迷惑になるだけでなく、マフラー及び車両の故障に繋がる場合がありますので、音量の増加等、グラスウール消耗の症状が表れた際はサイレンサーのオーバーホールサービス(有償)をご利用ください。

●走行時、走行後は大変マフラーが高温になっています。火傷にお気を付け下さい。

●シンナー等の強力な有機溶剤は本製品には使用しないで下さい。

●転倒等に伴う修理に関しましては、状態によりお受けできる場合と出来ない場合がございます。電話・メール等にてお問合せ下さい。その他ご不明な点ありましたらお気軽にお問い合わせ下さい。

NOJIMA ENGINEERING

〒513-0825 三重県鈴鹿市住吉町7265-7 TEL:059-378-3505 FAX:059-370-7811

WEB: <http://www.nojima-japan.co.jp> MAIL: [info@nojima-japan.co.jp](mailto:info@nojima-japan.co.jp)

NMM641TI-RS

131010